

子どもゆめ基金ガイド

2013



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



体験の風を
おこそう

かがやく先輩からの
メッセージ



目次

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
「体験の風をおこそう」運動	4
平成24年度助成活動事例（子どもの体験活動）	
【自然体験】	
・伊豆の自然を丸ごと体験	6
・発達障がい児と健常児との自然体験交流キャンプ	8
・平成24年度「植村直己に学ぶ」サバイバル体験教室	10
・わらしやんど えりもまるごと自然体験	12
【科学体験】	
・「体験の風をおこそう」運動 札幌西実験クラブ（発展） ...	14
・体験の風をおこそう運動 第21回 科学の広場	16
・野外の科学実験教室	18
【交流体験】	
・子どもの時こそ大切な障がい者との交流体験事業 「私はパティシエ？」	20
・第2回 ふるためあそびのがっこう	22
・たんぽにGO！第8回泥んこ綱引きと宝さがし	24
【職場体験】	
・ウォット 子供学芸員 教室	26
平成24年度助成活動事例（子どもの読書活動）	
【読 書】	
・子どもと本をつなぐ “絵本の読み聞かせボランティア スキルアップ講座”	28
・子どもの本の力を考えるフォーラム	30
・ホッとアートプレゼント「絵本はともだち」	32
平成24年度助成活動事例（教材開発・普及活動）	
・葉っぱと7つのミステリー ～ふしぎを見つけて、植物と友だちになろう！～	34
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ	
—申請までの流れ—	36
子どもゆめ基金ガイドの活用方法	
—申請のワンポイントアドバイス—	37
平成24年度普及啓発事業の事例	38
申請・採択状況	40
子どもゆめ基金へのご協力を	
「子どもゆめ基金」への寄附団体	41

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

今日、都市化や少子化、情報化などが進展する中で、これまで身近にあった遊びや体験の場が少なくなっており、平成25年1月の中央教育審議会の答申においても、体験活動の機会を意図的・計画的に創出することが求められているところです。

体験活動に関する調査（（独）国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態

調査」）では、「子どもの頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子どもの頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子どもの健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

● 助成の対象となる活動 ●

① 子どもの体験活動

- ・ キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・ 科学実験教室等の科学体験活動
- ・ 文化・芸術、スポーツ等を通じ交流を目的とする体験活動
- ・ 清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・ 地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動
- ・ 子どもの体験活動の指導者養成 など

② 子どもの読書活動

- ・ 読み聞かせ会、読書会活動
- ・ 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など

③ 子ども向け教材開発・普及活動

- ・ インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動



● 助成の対象となる団体 ●

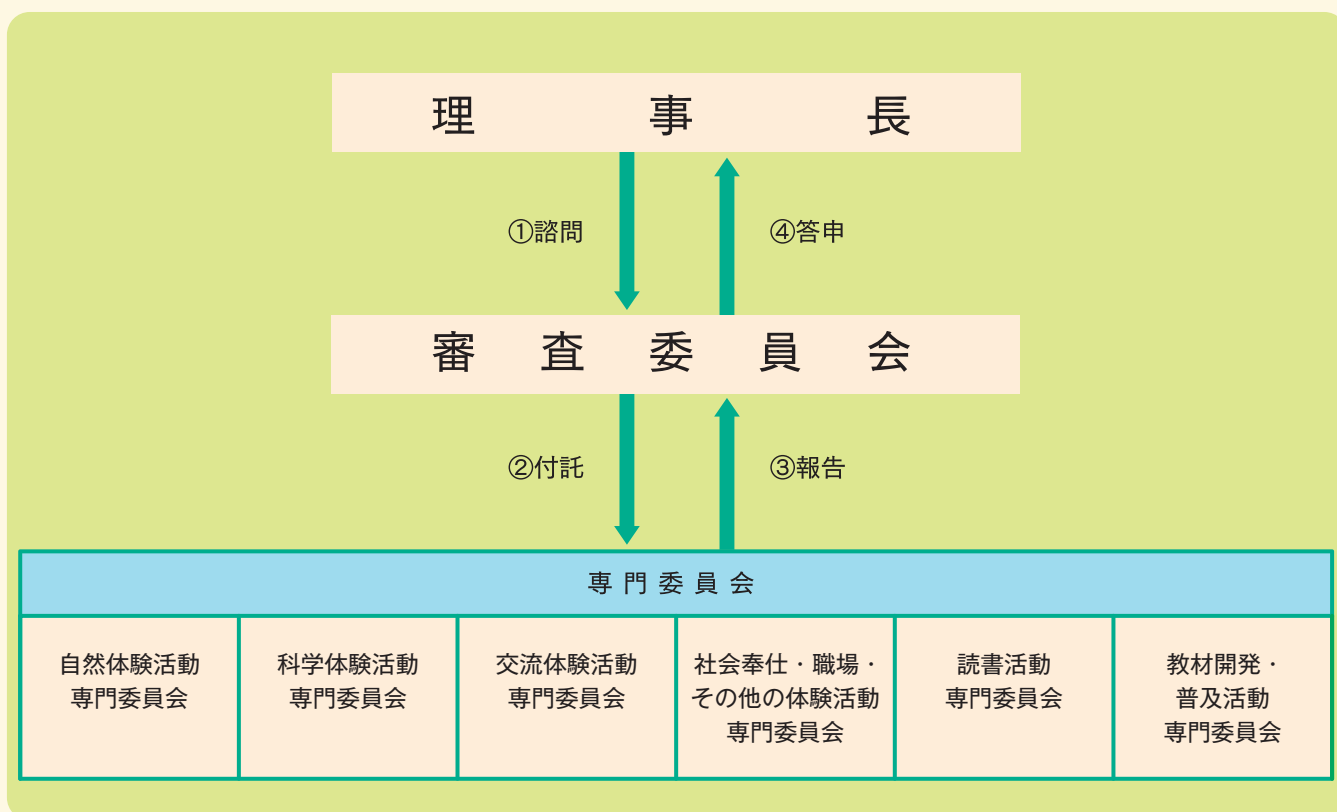
青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

● 助成金の額と審査方法 ●

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。





普及啓発

子どもゆめ基金では、子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。

● 普及啓発事業 ●

- ① 少年の主張全国大会
- ② 子どもの読書活動推進フォーラム
- ③ 読書と体験の子どもキャンプ
- ④ 地域読書活動の推進と人の礎づくり～人生をひらく読書の力～
- ⑤ ミクロネシア諸島自然体験交流事業
- ⑥ 日中韓子ども童話交流事業 など

● 広報活動 ●

- ① 子どもゆめ基金ガイドの作成
- ② 子どもゆめ基金PRグッズの作成 など



「体験の風をおこそう」運動[®]

「体験の風をおこそう」運動とは

近年、社会が豊かで便利になるなかで、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。「体験の風をおこそう」運動は、子どもの健やかな成長に、体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。

青少年期の体験が大切な理由とは

- 子どもの頃に、家庭や地域などで様々な体験をしたほど、大人になってからの資質・能力が高い傾向にあります。
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子どもの方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

※詳しくは次のページをご覧ください。



「体験の風をおこそう」運動に参加してみませんか。

(1) 体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、全国各地で子どもたちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。

(2) 子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を「子ども体験遊びリンピック」事業と呼び、全国統一イベントデー（平成25年度は10月26日[土]）のメイン事業として実施しています。

(3) 上記(1) または (2) の事業に参加いただける団体には、希望により「普及啓発ちらし」や「のぼり旗」を、また(2)の事業の参加団体には、当委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状を差し上げています。

また、これらの事業に関する印刷物等には本運動のロゴを使用することができます。

<普及啓発ちらし>



<のぼり旗>



<メダルと賞状>



「体験の風をおこそう」運動[®] 体験の風をおこそう



←エントリー方法等の詳しい情報は、当機構のホームページからご確認いただけます。

ガイドブック 「体験・遊びナビゲーター」



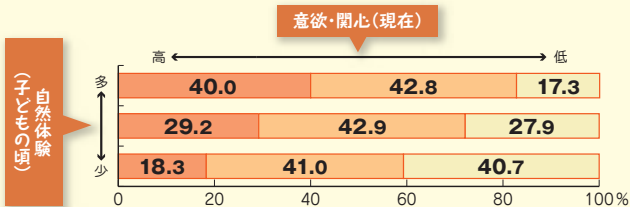
当機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります！

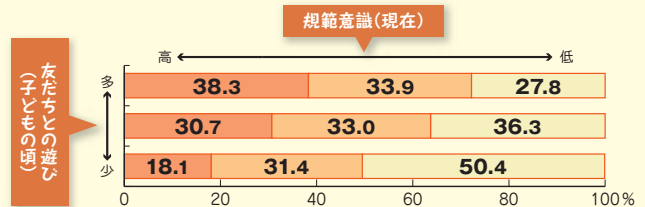
子どもの頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあります。

子どもたちの健やかな成長には普段からの、友だちとの遊び、お手伝いや地域での活動などが大切です。

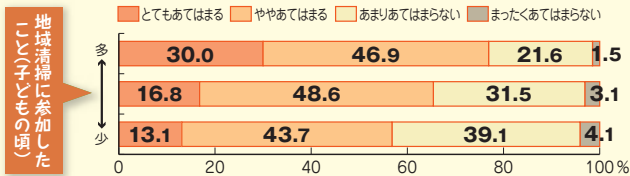
子どもの頃の「自然体験」と現在の「意欲・関心」との関係



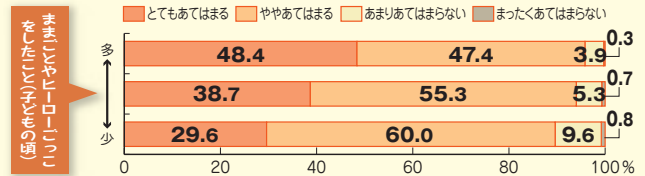
子どもの頃の「友だちとの遊び」と現在の「規範意識」との関係



経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい(現在)



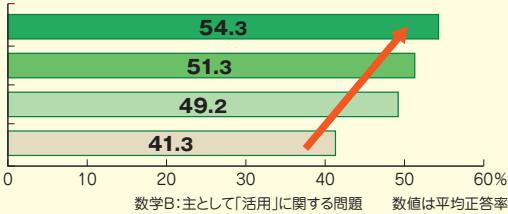
電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う(現在)



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

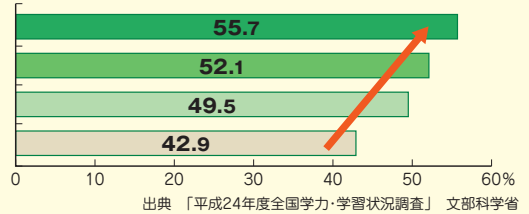
「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」と回答している子どもの方が、学力調査の平均正答率が高い傾向にあります。

【中学校3年生 数学B】



自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある

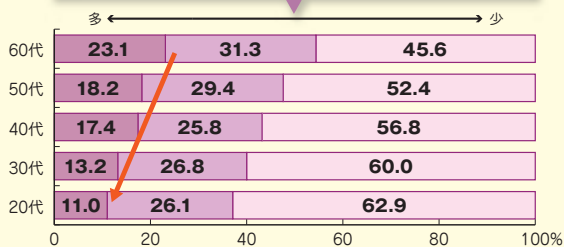
【中学校3年生 理科】



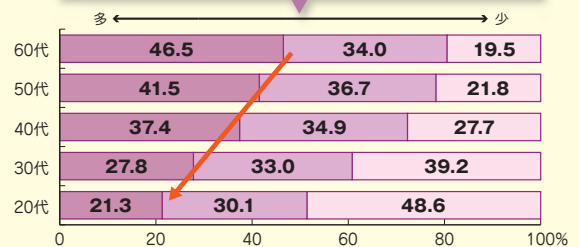
出典 「平成24年度全国学力・学習状況調査」 文部科学省

子どもたちが、自然のなかや、友だちと遊ぶなどといった体験の機会が減少しています。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたことの推移



小学校4～6年生の頃にすもや、おしくらまんじゅうをしたことの推移



出典 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」 国立青少年教育振興機構 平成22年

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会
 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本体育協会日本スポーツ少年団
 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ボーイスカウト日本連盟

体験の風をおこそう運動推進委員会事務局（国立青少年教育振興機構総務企画部） 〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1
 Eメール taikennokaze@niye.go.jp 電話番号 03-6407-7621



伊豆の自然を丸ごと体験

募集対象／小学3年生～中学3年生

活動日／平成24年6月2日（土）～平成25年2月9日（土）（8回）

実施団体名／電脳下田黒船学校

構成員数／5名

子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／静岡県下田市旧岡方村692-112

TEL／FAX 0558-22-4450 E-mail nabe9-1@fmwbs.jp http://kurofune.chips.jp

活動の概要

自然豊かな伊豆に住んでいながら、伊豆の素晴らしさを知らない子どもたちに実際に伊豆の海や山を体験してもらい、伊豆の魅力を感じ自然への興味関心を養うことを目的としました。

第1回は伊豆の秘境皮子平を訪問し、身近にこんなに神秘的な場所があることを知ってもらいました。

第2回はモリアオガエルの産卵地シラスタの池を訪れ、多くの卵塊とその産卵風景を見ると共に池にいる大量のイモリから食物連鎖の一端を垣間見ました。前日の大雨のためシラスタの大杉へは行ませんでした。その後バガテル公園を見学、バラ栽培の難しさ、工夫と説明してもらいました。

第3回は爪木崎でシーカヤック体験、初体験で自分で漕がなければ戻ってこれないのでみんな真剣でした。

第4回はスノーケリング体験、海の中の動植物を実際に見学、多くの熱帯魚を見ることができ、伊豆の海の多様性を感じました。

第5回はサーフィン体験、サーフィンのメッカにしながら体験したことのない子たちが、波を読み波に乗る楽しさを感じていました。

第6回は伊豆半島の成り立ちをテーマにその根拠となる岩石や化石を採集し、その標本を作りました。

第7回は火山をテーマに伊豆半島東海岸を中心に火山により作られた鉱石を採集し鉱石標本を作りました。

第8回は仮死状態にしたサメを実際に自分たちで解剖し、生命の神秘さとともに体の構造について理解しました。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
6月2日 (土)		第1回講座「新緑の天城散策」
	8:30	下田発
	10:45	伐場林道終点着
	12:00	皮子平着 皮子平周辺観察
	13:00	林道終点着
	17:30	下田着
		【講師：環境省自然公園指導員】
6月23日 (土)		第2回講座「モリアオガエル観察会」
	9:00	下田発
	10:00	白田林道ゲート前着
		シラスタの池着
	10:30	池周辺観察（モリアオガエルの卵塊・産卵の様子・イモリや植生）シラスタの池発
	11:30	シラスタの大杉着 （川が増水で危険のため途中で戻る。大杉訪問中止） ゲート前で昼食
	12:50	ゲート前発
	14:00	河津バガテル公園着 公園内散策
	15:30	河津バガテル公園発
	16:00	下田着
8月18日 (土)		【講師：環境省自然公園指導員】
		第3回講座「シーカヤック体験」
	9:00	下田発
	9:30	須崎爪木崎着
	9:45	フィッシング・パドル操作練習
	10:30	シーカヤック体験（海からの海岸線の観察） シャワー・更衣・昼食後移動（シーカヤック体験終了）
	13:30	午後は助成外活動
		【講師：地元シーカヤックスクール主催者】
9月15日 (土)		第4回講座「スノーケリング体験」
	9:30	下田敷根プール集合
	10:30	フィッシング
	11:00	スノーケリング体験（福浦周辺）
	15:30	フィールド発

月／日	時間	内容
9月15日 (土)	16:00	下田敷根プール着
		【講師：下田振興公社職員・地元愛好家】
10月13日 (土)		第5回講座「サーフィン体験」
	11:00	下田敷根プール集合
	12:00	フィッシング・座学 フィールドへ移動（南伊豆弓ヶ浜）
	12:30	サーフィン体験（波を読む）
	15:30	フィールド発
	16:00	下田敷根プール着
10月27日 (土)		【講師：日本サーフィン連盟 理事長・下田振興公社職員・地元愛好家】
		第6回講座「化石採集と標本作り」
	9:00	下田発
	9:30	白浜大浜着 座学後フィールドへ
	10:00	岩石採集・化石採集（昼食含む）
	13:30	標本作り（標本作製会場（サンワーク下田）にて）
	15:30	会場にて解散
		【講師：神奈川県立生命の星地球博物館 外来研究員・伊豆城ヶ崎ネイチャースクール主催者・地元愛好家】
12月8日 (土)		第7回講座「伊豆の地質講座」
	8:30	下田発
	10:00	伊東着
	13:00	伊東のフィールドにて鉱石採集（昼食含む） 鉱石標本作り（フィールドで採集と並行して実施）
	15:30	伊東発
	17:00	下田着
2月9日 (土)		【講師：伊豆城ヶ崎ネイチャースクール主催者】
		第8回講座「サメの解剖」
	9:30	筑波大学下田臨海実験センター集合
	10:00	講座開始（昼食含む） 座学・内蔵の観察までを午前中 頭蓋骨の観察を午後
	14:30	会場にて解散
		【講師：筑波大学 准教授】

活動のポイント

- ・ 苔むした日本庭園を思わせるような風景が自然にできる不思議さとともに、環境により大きく変わる風景の実際を見、自然の不思議さを感じます。
- ・ 多くの卵塊とともにその産卵風景、池にいる大量のイモリ。食物連鎖の一端を垣間見、自然界の仕組みに興味・関心を持ちます。
- ・ 海上を自分の力で進み、沖から見る陸地側の景色、海面すれすれに浮かぶ体験。自分で漕がなければ戻ることのできないことによる懸命さ。それらを通して視点を変えることのおもしろさを学びます。
- ・ 水中の世界の動植物を見ることにより、普段の磯観察とは別の視点で海の環境を見ます。
- ・ 波を読み、波に乗る楽しさを通して、海の楽しみを広げます。
- ・ 伊豆半島が南の海から今の地点に来た証拠となる岩石や化石を採取し、それで実際に標本を作製することにより、地学分野への興味関心を広げます。
- ・ 実際の解剖を通して、サメの体の仕組みを知ると共に切り離しても動く心臓や脊髄を切断するときに動く神経などを実際に見ることや触ることにより生命の神秘さを感じます。



砂鉄！砂鉄！ケースにすくった砂、全てが砂鉄です。ずっしりと重い！



余裕！余裕！あっという間にスノーケリングに慣れてしまいました。もう魚の仲間入りです。

活動のねらい

多くの専門家の協力を得て、伊豆の自然の素晴らしさ、楽しみ方を伝えることを第一のねらいとしています。ねらいと言うよりも夢ですが、この講座を通して興味を持った分野に進んだ子が、将来伊豆の発展や自然保護の一翼を担ってくれたらと思って活動を続けています。

活動の成果

活動中、活動後の声に「伊豆にこんな所があるなんて知らなかった。」「来年も活動に参加して、もっといろいろな体験をしたい。」「という声がたくさん聞かれる。また学校の理科の授業への興味が増し、家でも理科的な話をすることが多くなったという、保護者の声もある。小学校を卒業するまで活動に参加し、中学生になっても参加したいと言ってくる子が何人もいます。こんな声が私たちスタッフの励みにもなり、新しい企画作りにも力が入っている。



天城のブナにびっくり！大きく張り出たブナの枝、大ブナの大きさに思わず見上げてしまいました。

この活動を実施したことによる団体の成長

今まで以上に安全面に配慮をするようになったことが、一番の成長だと思います。野外に出る活動や危険を伴う作業に多くのアシスタントが関わってくれるようになりました。そのためスタッフにも余裕が出てより細かな点まで目が行き届くようになりました。また海の活動にはAEDのレンタルを導入し、万が一にも備えるようになりました。

活動の課題

私たちの活動は、講師陣に恵まれ、かなり専門性の高い活動を子ども向けにアレンジして展開されていると思いますが、講師陣の退職等により活動の継続が難しい講座もあります。さらにネットワークを広げ、新しいメニュー開発を考えていかなければならない時期にあります。

団体の概要

1999年夏より活動を開始、筑波大学下田臨海実験センターの協力や地域の専門家の協力により充実した活動を展開してきました。メンバーは、地元の教員を中心に公社職員などで構成し、少人数ながら子どもの輝いた目を見ると疲れも吹っ飛ぶという人たちばかりなので、子どもたちと一緒にスタッフも目を輝かせて活動しています。



発達障がい児と健常児との自然体験交流キャンプ

募集対象／小学生～中学生 活動日／平成24年8月20日（月）～8月22日（水）（1回）

実施団体名／NPO法人「こどもサポートネットあいち」

構成員数／20名 子どもゆめ基金助成回数／5回

連絡先／愛知県名古屋市北区西志賀町5-13-1

TEL & FAX：052-912-7101 E-mail：kodomospaichi@mediacat.ne.jp

活動の概要

このキャンプは、大自然を舞台に障がいを有する子どもと一般の子どもが、2泊3日の共同生活を行うことで互いに学び、自身を発見し合う交流キャンプです。子どもたちは、キャンプファイヤーや飯盒炊飯、クラフト活動等を通して思い出づくりをするとともに集団行動を肌で感じ、助け合うことを学びます。また、スタッフとして参加した社会的養護等の職員や教員を目指す学生たちは、ここで得た経験を活かして、将来の活動に役立てます。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
8月20日	07：30	名古屋TV塔集合、出発式
	08：00	バス出発（途中郡上八幡・高山経由）、昼食
	12：00	乗鞍青少年の家到着（入所式・荷物整理）
	14：00	自然散策、追跡ハイキング
	16：30	入浴、夕食
	19：00	レクリエーション
	21：00	就寝
8月21日	06：30	起床
	07：30	バス出発、朝食
	08：30	乗鞍岳登山出発、頂上で昼食
	16：00	青少年の家到着、入浴
	17：00	夕食
	19：00	キャンプファイヤー
	21：00	就寝
8月22日	06：30	起床、朝の集い
	07：30	朝食、荷物整理、そうじ
	09：00	飯盒炊飯・昼食・絵日記
	14：00	退所式、青少年の家出発、途中高山市内で買物と散策
	18：30	名古屋TV塔到着



できたぞー みんなで食べよう！

活動のポイント

- ・共同生活のなかで役割分担をし、それぞれが役割を果たすことを学ぶとともに、困ったときには助け合うことを学んでもらいます。
- ・子どもたちが、グループの中でお互いに良い関係を築けるよう、班のメンバーと学生スタッフが話し合いをし、異年齢間の交流を行います。
- ・乗鞍登山のプログラムでは、当日の体調や学年を考慮しながらグループを編成し、全員登頂を目指します。

活動のねらい

子ども同士の交流と、学生スタッフとの交流を通してお互いの発見と成長を図り、一生の思い出を作る活動を目指しています。子どもたちの成長はもちろん第一に支援していきますが、学生スタッフが将来社会的養護等の職員や教員になった時に、この活動で得た経験を子どもたちへの指導に活かしてもらうことも、大きなねらいの一つです。



活動の成果

活動後に、キャンプに参加した子どもの保護者の方から多くの激励の言葉を頂き、私たちはそれを励みに活動内容の充実を目指しています。

また、過去にこの活動に参加していた学生スタッフが、現在、社会的養護等の教員や職員として現場で活躍していることもこの活動の大きな成果の一つです。活動に参加した子どもの中には、過去にこの活動に参加した学生スタッフの教え子もあり、着実に輪が広がっているように感じます。



この活動を実施したことによる団体の成長

障がいを持つ子どもを対象とした野外活動を継続的に実施してきたため、団体として活動のノウハウが身についてきた感じがします。また、年々参加者が増えるなか、今まで大きな怪我なく活動を終えることができたことも、当団体の成長につながりました。



まだまだ登山頑張るぞー！

活動の課題

- ・活動に参加する障がいを持った子どもたちは、年々多様になってきており、スタッフの数が子どもの数の半数近く必要になることもあります。スタッフの資質向上のための研修や、人数の確保が今後の課題だと考えています。



仲間と作って、食べて 楽しそう…おいしそう…

団体の概要

平成8年6月に設立。日本の子どもたちが未来への希望を持つことが出来る社会の実現を目指して、発達障がい児を抱えている家庭や、社会の支援を受けて生活している子どもたち、将来社会福祉関連の職員や教員を目指す学生の支援をしていこうと集まった仲間たちです。当団体は、さまざまな障がいを抱え、あるいはどのような境遇にある親子であっても決して孤立することなく、楽しく子育てを楽しめるような地域社会の構築を目指しています。



平成24年度「植村直己に学ぶ」サバイバル体験教室

募集対象／小学4年生～6年生 活動日／平成24年6月23日（土）～8月4日（土）（3回）

実施団体名／「植村直己に学ぶ」野外活動実行委員会

構成員数／9名 子どもゆめ基金助成回数／5回

連絡先／兵庫県豊岡市日高町伊府785 植村冒険館内
TEL0796-44-1515 Fax0796-44-1514

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
説明会		
6／23 (土)	夜	参加者と保護者に分かれてキャンプについての説明、質疑応答
練習キャンプ		
7／7 (土)	午前	集合、開講式、自転車訓練、自転車移動、テント設営
	午後	昼食（弁当）
	夜	夕食（自炊）、テント泊
7／8 (日)	午前	起床、朝食（自炊）、自転車移動、自然体験（沢登り）
	午後	昼食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、閉級式、解散
7泊8日ロングキャンプ		
7／28 (土)	午前	集合、開級式、自転車走行点検・訓練、自転車移動、キャンプ地（そばの館）
	午後	昼食（弁当）、テント設営、自然体験（自然散策・川遊び）
	夜	夕食（自炊）、テント泊
7／29 (日)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、キャンプ地（豊岡市立港東小学校）到着
	午後	昼食（自炊）、自然体験（海水浴）、お風呂
	夜	夕食（自炊）、テント泊
7／30 (月)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、キャンプ地（竹野B&G海洋センター）到着
	午後	昼食（自炊）、自然体験（海水浴）
	夜	夕食（自炊）、テント泊
7／31 (火)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、キャンプ地（旧山田小学校）到着
	午後	昼食（自炊）、自然体験（川遊び）
	夜	夕食（自炊）、テント泊
8／1 (水)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、キャンプ地（廣井多目的山村広場）到着
	午後	昼食（自炊）、自然体験（川遊び）
	夜	夕食（自炊）、お風呂、テント泊
8／2 (木)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、自転車移動、キャンプ地（御殿山公園）到着
	午後	昼食（自炊）、自然体験（自然散策・川遊び）
	夜	夕食（自炊）、テント泊
8／3 (金)	午前	起床、朝食（自炊）、キャンプ地撤収、徒歩、自然体験（登山）自転車移動、宿泊地（隆国寺会館）
	午後	昼食（自炊）、各自使用したテント等片づけ
	夜	夕食（自炊）
8／4 (土)	午前	起床、朝食（自炊）、宿泊地撤収、各自使用した資材等片づけ
	午後	昼食（自炊）、自転車移動、ゴール地点到着、閉級式、解散

活動の概要

世界的冒険家である植村直己の育った但馬を舞台に、小学校4年生から6年生までの子どもたちに自然体験教室を開講しました。自然を相手に様々な経験を積むことで、生きる（衣・食・住）力を身につけてもらおうと同時に、登山や自転車移動などの目標を設定し、最後まで自分の力で乗り越え、やれば出来るという自信を養う場として毎年実施しています。



登山

活動のポイント

- ・食事作りでは、自分が食べるものは自分自身で作り、宿泊するテントも一人用によって自分のペースで自分の責任において活動しているということを意識付けさせます。
- ・キャンプ地を移動するプログラムでは、自分がやらなければ次のキャンプ地に行けないことを自覚させます。
- ・活動のペースは自分なりにしても良いが出発時間に間に合うようにすることを原則としています。（ご飯づくりの遅い人は早く起床して作るということ。）
- ・これらのことから、自分のことが出来て初めて団体生活が成り立つことを気づかせます。また、同じ作業を繰り返す中で時間短縮を図るため自分たちで効率の良い作業となるよう工夫し、快適なキャンプ生活を送れるように指導しています。そして、この活動を継続して参加してもらうことにより、更なる成長が見られるようになります。

活動のねらい

- ・子どもたちが日常生活から切り離された環境の中で、一人で自炊、一人用テント泊、後片付けを行うことで普段の生活との違いを実感させ、親や支えてくれる人への感謝の気持ちに気づくこと。
- ・7泊8日という長い間、自炊だけでなく毎日キャンプ地まで自力で自転車等で移動し、目標を達成することで自分の成長に気づき、やれば出来るという自信を付けさせます。
- ・個々のハードルを越えたという自信を付けてもらい、次の高いハードルに挑戦する勇気（自信）を持たせること。



活動の成果

初めての参加者は、不安とホームシック、厳しい生活、辛い自転車移動・登山、ときに楽しい川遊び等を繰り返し、7泊8日のロングキャンプを終えた頃には日焼けし、笑顔いっぱい家族の元に帰ってキャンプの苦労話や楽しかったことを話しており、いい思い出となることと同時に、やり遂げた自信を持って、次の年にまた、参加しています。参加者から一番よく聞く感想が「お母さんのありがたさがよくわかった。」ということです。参加者のお母さんから聞くことは、「家族のためにご飯を作ってくれました。」ということです。2年目の参加者は、難なくキャンプ生活をこなし、楽しいキャンプ生活を送っている姿が見受けられ、同じ苦労をした仲間との深い絆が出来ているように感じられ、「自分のことは自分で出来るようになります。→団体生活がきちんとできる。→そしてかけがえのない友達になる。」へステップアップしています。当然のことながら、参加者の炊飯、テント設営、片付けの技術は目に見えて上達しています。



この活動を実施したことによる団体の成長

この活動を卒業した参加者（中学生以上大学生未満）に参加希望を取り、サブリーダーとしてこの活動の手伝いしてもらい、参加者の先輩として指導的立場で活動に携わってもらっています。サブリーダーも参加回数を重ねるごとに成長する姿がうかがえ、徐々に責任感のある行動が出来るようになっており、サブリーダーとしてのやりがいを見つけてがんばっています。自転車移動、川遊び、食事作り等の活動や参加者との接し方について、毎夜にミーティングを実施することにより、スタッフの問題点の解決やレベルアップに繋がりました。



川遊び

活動の課題

この活動は7泊8日のロングキャンプに意味があり、これを実施するには、平日に参加できるスタッフを確保することが必要です。

普段仕事をしている人たちのボランティア団体であるため、自転車移動の過程で、安全管理を行うスタッフの人数を確保すること。また、少ない予算で運営しているため、宿泊地の確保が年々難しくなっています。ほかには、活動が夏で気温が高く、参加者の熱中症、食中毒対策に気を使っています。



食事作り

団体の概要

以前は、町主催の事業であったが、ボランティア団体の実行委員会が主催する事業となり、リーダーを募集しながら運営しています。団体のメンバーは多種多様で、学校の先生や一般企業、消防士、警察官で構成されています。構成員の大半はあらゆるジャンルのスポーツ経験者と現在も指導を行っている人です。



わらしゃんど えりもまるごと自然体験

募集対象／小学4年生～6年生 活動日／平成24年5月19日（土）～平成25年1月26日（土）（9回）

実施団体名／えりも町郷土資料館N42°の会

構成員数／34名 子どもゆめ基金助成回数／10回

連絡先／北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地 えりも町郷土資料館内

TEL：01466-2-2410 FAX：01466-4-7966

E-mail：erimomus@cocoa.ocn.ne.jp <http://www2.ocn.ne.jp/~horoizum/n42.htm>

活動の概要

えりも町の自然・歴史・文化と自分たちの生活がつながっていることを、実際の体験を通して子どもたちに気づかせ、さらに郷土への関心を高めるため、2泊3日のキャンプと日帰りの体験活動プログラム全9回を様々な自然環境の中で実施しました。

活動の日程・内容

月／日	内容
5月19日（土）	第1回「春の里山、自然と遊ぶ」…春の植物など自然観察 講師：山菜や自然に詳しい外部講師
6月24日（日）	第2回「猿留山道 復元ボランティア」 講師：北海道内で活動している環境市民団体代表
7月21日（土）	第3回「自然体験キャンプの事前学習」…キャンプの事前練習。講師：団体構成員
8月1～3日	第4回「自然体験キャンプ」 キャンプサイトづくり、食事づくり、川・山の自然観察、焚き火体験、五右衛門風呂体験、天体観察、昆虫学習。 講師：自然体験活動、動植物に詳しいフリーランス学芸員、自然調査員
8月18日（土）	第5回「百人浜ウォークとカヤック体験」…百人浜ウォーク、カヤック体験。 講師：地元カヤック業者
9月29日（土）	第6回「三枚岳登山」〈悪天候のため中止〉
11月11日（日）	第7回「フットパス歩き」 フットパス歩き、自然観察。講師：団体構成員
12月15日（土）	第8回「蒬玉&リースづくり」…つる集め、蒬玉用枝集め、リース作り、餅つき、蒬玉づくり。講師：団体構成員
1月26日（土）	第9回「雪遊び」〈悪天候のため中止〉



猿留山道復元ボランティアでのザリガニ探し

活動のポイント

- ・地域資源（自然・歴史・文化）を活用して郷土への関心を高め、暮らしている地域について学び、故郷意識を高めるよう努力しました。
- ・主体性を育む活動であるため、参加者が自然の中で自ら気づき自主的に物事に取り組めるように、安全面に注意しながらサポートしました。
- ・学年や年齢の違う参加者同士、そして大人である指導者たちが、自然の中で同じ体験を通して共感する心を持てるよう、異世代交流の機会づくりにも注意を払いました。

活動のねらい

- ・様々な自然環境に多様な生物が暮らし、それが山と海の自然を構成することで、地域の主産業である水産業を支え、地域の歴史と文化が育まれてきたこと、今の暮らしが地域の自然とつながっていることを子どもたちに体感させます。
- ・参加者が心の奥深くに、その時々感情（感動、辛かったこと、達成感、楽しかったことなど）を刻み込み、各々の心の原風景をつくり、自主性を高め異世代交流をすすめます。



活動の成果

保護者の方々から「帰ってきて楽しいことを話してくれたので、会話が弾んだ。」「子どもたちが、親でも行ったことのない場所で経験したことのない体験をしてきて、自分たちが暮らしていても知らないことが多かったのだと気付かされた。」などの声をいただきました。暮らしている地域の自然が多様で豊かであるからこそ、自然の中での活動は子どもたちに充足感を与え、さらには自ら考えて行動するように成長しました。また、学校・学年・年齢を越えた活動を行うことで、交友関係も深くなっているようです。



この活動を実施したことによる団体の成長

平成14年からこの活動を継続しているため、「わらしやんど」（元来の意味は“子どもたち”を意味する）が私たちの自然体験活動の名称として、子どもたちや地域住民に認識されるようになったことで地域の企業や漁業者からも協力を得やすくなりました。当会およびその会員と地域の結びつきが、より太くなったと考えています。



春の里山歩きでの木登り

活動の課題

- ・野外での活動であることから、悪天候のため平成24年度は2度中止せざるを得ませんでした。日程変更が難しい時期もあり、悪天候時はどのように活動を行うか、準備と工夫が必要です。
- ・保護者が自然体験を経験したことがないため、事前に子どもへ適切な指導ができていないようでした。服装、履物、持ち物など活動に不十分な装備も見受けられたことから、保護者への助言が課題です。



悲恋沼でのカヤック体験

団体の概要

平成13年に組織し、えりも地域の自然・歴史・文化などを郷土資料館とともに調査し、その成果を地域住民に還元、地域の再評価、地域資源の掘り起こし、さらにその価値を高める活動をしています。また、地域の子どもたちが故郷えりもをいつまでも大切に心のよりどころにできるよう、また将来の地域づくりにつながることを視野に入れて活動するように努めています。



「体験の風をおこそう」運動 札幌西実験クラブ(発展)

募集対象／小学5年生～6年生 活動日／平成25年2月10日（日）～3月10日（日）（5回）

実施団体名／地域の理科教育を考える会

構成員数／5名 子どもゆめ基金助成回数／5回

連絡先／北海道札幌市西区山の手一条8丁目3-18-101

TEL・FAX：011-612-3227 E-mail：ito@cb4.so-net.ne.jp

活動の日程・内容

2月10日（日） 10：00～12：00

実験テーマ：地震・津波などのしくみ

岩石破壊実験などで、地震発生のしくみや地震の伝わり方について調べます。また、身の回りにあるものを使って、液化現象のモデル実験を行ったり、建物の揺れ方や地震に強い構造について考えたりします。さらに、津波発生装置で、津波発生のしくみや伝わり方、普段の波との違いや、波と地形との関係について考えます。

2月17日（日） 10：00～12：00

実験テーマ：科学実験アラカルト

サインペンの黒インクは実は色々な色が混ざってできています。これをペーパークロマトグラフィーという方法で分けて、きれいなしおりを作ります。また、アリの模型や紙コップで作る不思議な飛行物体「とびコップ」など、工作を中心にいろいろな分野の実験をとりまぜて行います。

2月24日（日） 10：00～12：00

実験テーマ：ブロッコリーのDNA抽出

DNAはデオキシリボ核酸という高分子生体物質で、私たち人間やブロッコリーなどの野菜などでは遺伝情報を担う物質となっています。このDNAを、ブロッコリーのつぼみをすりつぶし、食塩や洗剤など身の回りにあるもので作った抽出液で取り出して観察します。

3月3日（日） 10：00～12：00

実験テーマ：表面張力・錯視

逆さにしてもこぼれない水の実験やシャボン膜の実験を通して、表面張力にはどのような性質があるのかを学びます。また、表面張力を利用した簡単な手品の仕掛けを作ります。後半は、目のはたらきに関する実験や目の錯覚である錯視の実験を通して、視覚と認識について学びます。

3月10日（日） 10：00～12：00

実験テーマ：ヒヨコの解剖

ヒトの身体のつくりやそれぞれの臓器のはたらきについて学習した後、ハ虫類のペット用のエサとして販売されている冷凍ヒヨコの解剖をします。解剖を通して実際に動物の身体の臓器などを観察することで、生物にはとてもよくできた身体の仕組みがあることを学びます。

会場は札幌市立山の手南小学校をお借りしました。

ほぼ毎回、1班に1名の大学生TAなどを配置して参加児童一人一人に目の行き届いた指導ができるようにしました。

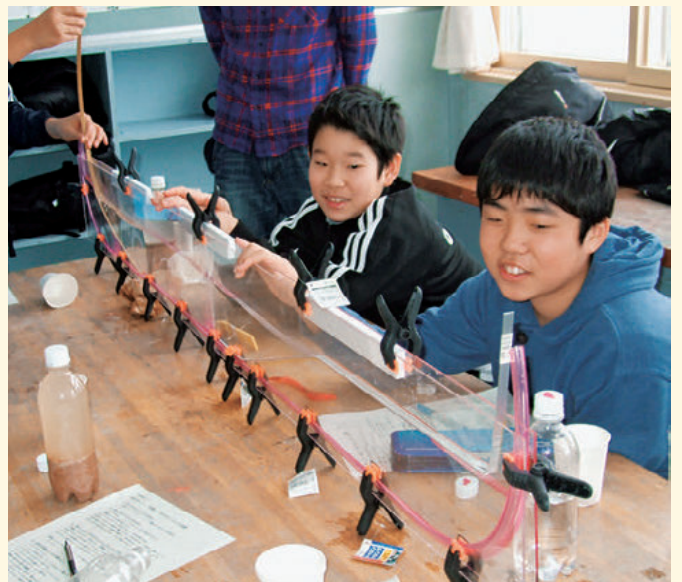
実験の内容は少々難しめだったのですが、参加した児童は興味・関心を持って一生懸命活動していました。

活動の概要

身近な公共施設である学校を会場として、地域に住む専門的な知識・指導力をもった教員やNPO法人の方を講師に迎え、会場周辺に住む小学校5、6年生を対象に小学校の普段の授業ではあまり扱われない少し高度な内容の理科実験教室を行いました。いろいろな分野の5回の理科実験を通じて、自然を観察し、科学的な視点でものごとを考えることの大切さを理解してもらうとともに、理科・科学に対する興味・関心を高めることを目的としました。

活動のポイント

- ・ 専門家による指導：理科教育センターやNPO法人の職員など専門的な知識を持った講師が指導を行います。
- ・ 少人数指導：1班に1名の大学生TA（ティーチング・アシスタント）などを配置し、少人数で目の行き届いた指導を行います。
- ・ ちょっと高度な内容：実験内容は、小学生が背伸びすれば届くようなやや発展的（高度）な内容を扱います。



津波の実験

活動のねらい

「体験の風をおこそう」運動を推進するために、科学体験活動「札幌西実験クラブ」の発展形として「札幌西実験クラブ（発展）」を行いました。この活動では、自然を観察し、科学的な視点でものごとを考えることの大切さを5回の理科実験を通じて子どもたちに理解してもらうこと、及び、理科・科学の楽しさにふれて、子どもたちの理科・科学に対する興味・関心を高めることをねらいとしています。



活動の成果

物理・生物・地学・ものづくりの各分野について、理科教育センターやNPO法人の職員など専門的知識を持った講師が指導を行うことで、バランスよく内容的にも深みのある実験教室を行うことができました。子どもたちも、5回の理科実験を通じて、自然を観察し、科学的な視点でものごとを考えることの大切さを十分に理解できたものと考えます。また、今回の実験クラブへの参加をきっかけに理科・科学に対する興味・関心も高まり、今後の学習に対する意欲を喚起することができたと思います。



この活動を実施したことによる団体の成長

この活動を通して、地域に住む専門的な知識・指導力をもった教員やNPO法人の方とのネットワークができたり、理科実験教室の運営に関するノウハウを学ぶことができました。今後も地域の子どもたちのために、理科・科学の楽しさにふれる機会を増やしていきたいと考えています。



「とびコップ」の実験

活動の課題

募集案内は、会場近隣の小学校8校に配布していますが、このような理科実験教室に参加したい児童はまだ多数おり、今後こういった活動の輪をどのように広げていけるかが課題です。



ブロッコリーのつぼみを乳鉢ですりつぶす

団体の概要

札幌に住む、元教員による有志団体です。地域の人材を活用し、地域の子どもたちに理科・科学の楽しさ、素晴らしさを理解させ、理科・科学に対する興味・関心を高めていくことを目的として活動しています。



「体験の風をおこそう」運動 第21回 科学の広場

募集対象／未就学児～高校生、一般成人、保護者

活動日／平成24年12月23日（日）

実施団体名／科学する心を育む会

構成員数／6名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／秋田県由利本荘市岩谷町字松山62

TEL 0184-65-2155 FAX 0184-65-2155 Email : bakkehiromi@yahoo.co.jp

活動の概要

地域の子どもの「科学する心」を育むことを目的として、高校教師と高校生と卒業生が小中学生向けの実験教室を開催し、科学の楽しさを伝えています。高校教師だけではなく、高校生スタッフも科学体験ブースの企画・指導に携わり、自らの科学に対する興味・関心を高めています。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
12月23日 (日)	〈午前の部〉	
	8:30	受付
	9:00	参加者入場・活動の説明。スタッフと各ブースの説明。
	9:10	参加者が各ブースを回り実験を行う。
	11:30	アンケート記入、片付け
	〈午後の部〉	
	12:30	受付
	13:00	参加者入場・活動の説明・スタッフと各ブースの説明。
	13:10	参加者が各ブースを回り実験を行う。
	15:30	アンケート記入（スタッフも全員）、片付け
	16:00	記念撮影

【実験内容】

- ①厚紙とストローで作る竹とんぼ
 - ②テクノ手芸（電子工作）
 - ③絞り染めでマイTシャツを作ろう
 - ④大気中のNO₂（二酸化窒素）を調べてみよう
 - ⑤ピンホールカメラを作ろう
 - ⑥放射線ってなに？
 - ⑦飛ぶもののいろいろ
 - ⑧七宝焼き
 - ⑨ぐにゃぐにゃプラスチック
 - ⑩とろける金属
 - ⑪静電気モーター
- ※午前、午後ともに同じ実験内容



眼が光るネコを作ろう！（テクノ手芸）

活動のポイント

各学校でのテーマの検討：

教師と生徒が協議しあって、参加者に「科学の不思議さ・楽しさ」を実感してもらえるテーマを決定し、予備実験を通して内容を理解し、生徒が参加者に分かりやすく説明できるよう工夫する。

スタッフ全員での協議と準備：

高校生スタッフが会場に集合して、各ブースのテーマについて協議し、お互いのテーマの関連性を理解し合う。準備段階で参加者の子どもに危険のないよう最善の配慮を確認する。ブースの内容が理解しやすいテキストを作成する。

科学の広場当日：

参加者は化学室に集合してもらい、スタッフと各ブースの内容を紹介する。スタッフと一緒に事故無く楽しんでくれることと、最後に感想を参加者全員記入してくれるようお願いする。また、高校生スタッフも楽しみながら参加者に「科学の不思議さ・楽しさ」を味わってもらえるよう配慮しながら指導する。

活動のねらい

地域の小中学生および保護者の皆さんに「科学の不思議さ・楽しさ」を実験を通して実感してもらう。高校生のスタッフには、参加者に対して「分かりやすく説明する」ことによって「科学する心」を育むことができるよう指導する。事前準備の段階で、スタッフが集まって意見交換をすることで、科学への理解を深める。科学の広場の講師、助手、スタッフが切磋琢磨しあって参加者に科学の楽しさを伝える。



活動の成果

参加者の子どもたちが親とともに「科学の不思議さ・楽しさ」を十分に堪能してくれたことが感想からよく分かりました。リピーターの皆さんも新しいテーマを工夫している点に満足してくれていました。「大気中の NO_2 （二酸化窒素）」については少し難しいかなと思ったが、子ども達がしっかり理解してくれていました。放射線についてもじっくり考えてくれていました。絞り染めについてもスタッフの指導が良かったためか、いろいろな模様のはっきり出来て、媒染も鮮明に出てお互いに感激しました。飛ぶ物は「竹とんぼ」も「アルソミトラの種」も良く飛んでスタッフも参加者も大満足でした。



この活動を実施したことによる団体の成長

- ・事前の準備に参加出来た高校生スタッフは自信を持って説明出来たようでした。当日先生と一緒にスタートしたメンバーは少しずつ理解して、参加者に説明しながら理解を深めたようでした。スタッフのほとんどの高校生が「次回も参加したい!」という感想を書いてくれていて企画者としては次へのエネルギーになりました。
- ・高校生スタッフが自信を持って希望の大学に進学しています。またその卒業生が時間を作ってスタッフとして後輩の指導しながら、参加者に「科学の不思議さ・楽しさ」を伝えてくれているのは何よりの誇りであり団体としての成果です。
- ・今回もお互いに「科学する心」を確実に育むことが出来たと思います。今後もさらに工夫しながら「科学の広場」を開催していきたいです。



絞り染めでマイTシャツを作ろう

活動の課題

指導している高校の理科教師が退職したり転勤したりすることにより新たなメンバーで取り組まなければいけない場面が生じてきています。幸い21回目まではメンバーが入れ替わっても、どんなに忙しい分掌担当になっても、シッカリ内容が引き継がれ活動が続けていくことができました。また、高校生スタッフが事前にいかに内容を理解して本番に臨むかが常に課題です。教師と、内容を周知したスタッフが協力し合って、参加者に事故無く楽しんでもらうことが常に必要とされます。



七宝焼きで小物づくり

団体の概要

平成14年度に全県の高校理科教師35名と科学部員等で「科学する心を育む会」を結成しました。15年3月に「第1回科学の広場」を本荘由利地域のメンバーで開催しました。その後、夏と冬1回ずつ開催が続いている。毎回参加者の皆さんが「楽しかったのでまた参加したい!」と言ってくださる感想に、新たなエネルギーをいただいて活動を継続して行っています。



野外の科学実験教室

募集対象／小学4年生～6年生 活動日／平成24年7月28日（土）～平成24年7月29日（日）（1回）

実施団体名／特定非営利活動法人ふくい科学学園

構成員数／51名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／〒910-0804 福井市高木中央2丁目3701-9

TEL・FAX 0776-53-3787 E-MAIL: h-kagawa@hb.tp1.jp

活動の概要

本団体では、小学生高学年を対象にした科学実験教室を1カ月に2回、土曜日の午前中定期的に開催しています。この実験教室では、子どもたちの好奇心を刺激し、論理的思考力と創造性を高める実験を、グループ実験の形式で行っています。この実験教室をもっと一般の方に知ってもらい、多くの科学好きの子どもたちを育てるため、一般応募により合宿形式で野外の科学実験教室を行います。内容は、通常の実験教室ではできない時間のかかる実験や植物・昆虫等の顕微鏡観察、および天体観測などです。

活動の日程・内容

月/日	時間	内容
7月28日 (土) 〈第1日目〉	9:30	アオッサ集合(1階ロビー)、貸切バスにて移動
	11:00	奥越高原青少年自然の家到着
	11:15	オリエンテーション(合宿のスケジュールについて説明、班分け、役割分担等)
	12:00	昼食
	13:00	実験I〈望遠鏡の製作(1人1台)〉
	14:30	実験II〈ニジマスのつかみ取り・解剖〉
	16:15	実験III〈水滴レンズ顕微鏡の製作〉
	17:30	夕食
	18:15	講義I〈天体観測に関する説明〉
	19:00	入浴
	20:15	望遠鏡による天体観測 (当日製作した望遠鏡も使用)
7月29日 (日) 〈第2日目〉	22:00	消灯・就寝
	6:30	起床・洗面・寝具整理、清掃、荷物移動
	7:30	朝食
	8:30	実験IV〈身体運動を科学する〉 ボールを遠くに投げる投球の動作の分解、および実践
	10:30	実験V〈植物・昆虫の顕微鏡観察〉 (顕微鏡観察スケッチコンテスト)
	12:00	昼食
	13:00	アンケート
	13:30	退所のつどい
	14:00	貸切バスで移動
	15:30	アオッサ前で解散



お菓子の箱でガリレオ式天体望遠鏡を製作

活動のポイント

- ①: もの作りの楽しさを学ぶために、老眼鏡レンズ、使い捨てカメラのファインダーレンズ、チップスターのお菓子箱など、身近な材料を用いてガリレオ式の望遠鏡(約20倍)を製作しました。製作した望遠鏡を使って月の表面のクレーターの観察を行いました。また、スライドガラスにネジリングをはりつけて、水を入れ、10倍～20倍の水滴レンズ顕微鏡を製作しました。これを使って植物や昆虫の顕微鏡観察を行い、スケッチコンテストを実施しました。
- ②: スポーツも科学的に理解し、それにそって練習することで速く上達できることを、具体的にボールをより遠くに投げる課題について取り組みました。

活動のねらい

周りを緑の山々で囲まれた環境の中、自然を利用した科学実験を体験することで、自然の美しさに感動し自然を愛する心、自然を注意深く観察する心、あきらめずに何度も何度もやってみようとするねばり強い心など、科学する心を学ぶことをねらいとしています。また、もの作りの精神を養うために、時間をかけて実験器具の製作を行います。



活動の成果

この合宿には、35名の児童が参加しました。天候にも恵まれ、予定したプログラムを全て実施することができました。

参加者に対して行ったアンケートでは、多くの「とても楽しかった」という回答を得ることができ、充実した合宿を行えました。また、児童が合宿中に製作した手作りの望遠鏡・顕微鏡は、その後児童の夏休みの自由研究に使用されました。



この活動を実施したことによる団体の成長

合宿に参加したスタッフは幅広い世代の会員で構成されており、合宿を行うことでスタッフ同士の交流が深まり、団結力が向上しました。また、インドネシアからの留学生がスタッフとして活動に参加していたことも、参加者にとって良い経験となりました。



虹マスのつかみ取りの説明を受けている

活動の課題

天体観測は合宿中の重要なプログラムの1つです。しかし天候は不確かなので、天体観測が出来ない場合を考慮して、他のプログラムを併行して準備しなければならないことがわかりました。また、合宿で使用する教材の開発や人材育成が今後の大きな課題です。



虹の実験

団体の概要

私たち“科学の見える化”を通じて、科学の面白さを伝え、科学の考え方を伝承すること、これを通して世界平和に寄与することにかけています。そのために次の3つの事業を行っています：1) 子どもを対象にした科学実験教室の定期的開催、2) 海外教育支援、3) 科学実験教材の開発



子どもの時こそ大切な障がい者との交流体験事業「私はパティシエ？」

募集対象／小学生 活動日／平成24年11月4日（日）～平成25年1月20日（日）（2回）

実施団体名／特定非営利活動法人子どもっとまつど

構成員数／7名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／千葉県松戸市馬橋2855番地 マンションニュー松戸407号

Tel：047-344-2272 FAX：047-344-2272

Email npo-mkg@cd.wakwak.com HP <http://kodomotto-matsudo.com/>

活動の概要

「ノーマライゼーション」の理念実現に向けて考え「心のバリア」を取り除くためにも、子どもの時に出会いの機会をつくることで、相互理解を深めようと開催しました。障がい者として困ったことなどの話から、普段気が付かないことに気づき、理解を深めることと、「人」というものに向き合って考えられるようにすることが目的です。

全2回の活動をそれぞれ別地域で実施し、多くの子どもに参加を呼びかけました。第1回では、「オリジナルのチョコレートパフェを作ろう」、第2回は、「オリジナルのチョコレートムースを作ろう」といった活動を実施しました。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
第1回 オリジナルのチョコレートパフェを作ろう		
11月4日 (日)	11:00	講師・スタッフ集合（自己紹介と手順の打合せ）
	12:00	食器の洗浄 ・材料の計量 ・会場の設営 ・食材の仕分け
	12:45	受付開始（名札を並べる）
	13:00	開講（今日のスケジュール説明、手順とコツの説明）
	13:10	調理開始
	14:30	試食会
	14:40	交流会
	15:00	解散
第2回 オリジナルのチョコレートムースを作ろう		
1月20日 (日)	12:00	講師・スタッフ集合（自己紹介と手順の打合せ） 食器の洗浄 ・材料の計量 ・会場の設営 ・食材の仕分け
	12:45	受付開始（名札を並べる）
	13:00	開講（今日のスケジュール説明、手順とコツの説明）
	13:15	調理開始
	15:00	試食会
	15:20	交流会・片づけ
	16:00	解散

講師 西村泰久（筋ジストロフィー患者・車イス生活者）
子どもっとまつど会員



手順とコツの説明

活動のポイント

- ・障がい者として暮らす日常生活で、「怖いこと」「困ったこと」などの体験談を交えてお話をしてもらい、普段の何気ない生活の大切さを感じます。
- ・質疑応答のなかで、分からないことなどを質問してもらい、より関心を持てるようにします。
- ・20年に渡るパティシエ経験者から、オリジナルパフェ・ムース作りの指導を受け、交流の場を提供します。

活動のねらい

- ・障がいを持つ講師（パティシエ）を迎え、お菓子づくりを体験しながら、障がいと向き合いながら暮らす日常と体験談や障がい者として感じる思いや考えを聞きます。
- ・お菓子作りを通して交流することで、普段何気なく暮らしている日常生活の大切さを感じてもらうとともに、障がい者への理解を深めます。



調理開始

活動の成果

障がいを持つ講師が不自由な手で作る綺麗なケーキに感動し、同じものを作ることによって、より交流の距離が縮まりました。分担作業も指示待ちをするのではなく、各班が自主的にできているのが見て取れました。障がいを持ちながら暮らす日々の生活の話も、司会者のインタビュー形式の質問に加え子どもからの素朴な質問もあり、丁寧に応えてくださったことで、障害への理解が深まりました。今後は、継続した活動を行い市内全域に広げていきたいです。

活動の課題

- ・リピートを希望する参加者が多いのに対し、募集できる人数が限られているため、現在の開催方法とは別の方法を検討する必要があります。また、障害者の講師への負担軽減のためにスタッフ養成が課題となりました。
- ・見学している保護者が自分の子どもにたびたび注意や指図をすることがありました。保護者に対して、単にお菓子作り教室ではないこと、子どもの自由な発想による活動であることを、開講の冒頭で説明する時間を設けて、理解と協力を得る必要がありました。

この活動を実施したことによる団体の成長

この活動では、企画立案の時点で依頼予定の講師が開催主旨に賛同し会員となり、同様の活動を継続することと、より広い範囲への働き掛けが可能となりました。また、講師の所属先であるNPO法人との協働事業も展開されるようになり、様々な活動に展望が広がっています。



交流会

団体の概要

地域の親子を対象に「子どもたちにワクワクドキドキする体験を！」を掲げ、「子育て支援事業」「子どもの体験事業」「舞台鑑賞・ワークショップ事業」「三世代交流事業」「他団体との協働事業」を行っています。メンバーは、1974年に設立された旧松戸子ども劇場（NPO法人格取得時に改称）の役員で構成されています。



第2回 ふるためあそびのがっこう

募集対象／未就学児～中校生、保護者

活動日／平成24年11月23日（金）（1回）

実施団体名／エコミュージアム研究会

構成員数／9名

子どもゆめ基金助成回数／2回

連絡先／furutame@gmail.com

活動の概要

愛知県豊橋市内に唯一残る木造校舎「ふるため」で、地域の大人たちが、自分の「得意」を活かした「あそびの屋台」ブース等を運営し、子どもたちと一緒に遊ぶことで、地域の大人と子どもの世代間交流、地域交流の場をつくる活動です。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
11月23日 (祝・金)	11:00	あそびのがっこう開校 ※子どもたちがスタンプラリーをしながら会場を自由に回って色々なあそびを体験できるスタイル
		◆あそびの屋台 大人たちが自分の得意なあそびを子どもたちに伝え一緒に遊ぶ屋台。50件を超える屋台が出展し、子どもたちは様々なあそびを楽しみました。
		◆体感イベント 天候の関係もあり、ふるための校舎内に多くのあそびの屋台が出展されました。子どもたちは遊びながら、ふるための使い込まれた木の風合いや老人クラブの方などから当時の様子を聞くなどし、自分の視点からふるためを感じたり、知ることができました。
		◆交流ステージ 子どもたちは老人クラブの方からけん玉やコマを教わって、その場で技を披露したり、アフリカの太鼓を練習して閉会式で演奏したりしました。大人たちも花束のブーケ作りショーや紙芝居、ジャンベ演奏等を披露したり、子どもたちに教えたりして一緒に遊びました。こうしたステージを通して、大人と子どもが交流することができました。
		◆ワークショップ ふるための教室を会場に、5つのプログラムでじっくり創作活動をしました。 プログラム：豊橋筆をつくろう、土器でDOKI☆DOKI、ニュース番組づくり、竹で知恵の輪づくり、宝箱づくり
	15:30	あそびのチャンピオン表彰式 スタンプを一番多く集め、一番たくさん遊んだ子がチャンピオンになり、表彰されました
		終業式
	16:00	あそびのがっこう閉校

活動のポイント

地域内外の個人・団体がそれぞれの活動ミッションを大事にしつつ企画を持ち寄ることで、幅広く魅力的な体験の機会を子どもたちに提供しています。



紙芝居の熱演にみんなの視線は釘付けでした

活動のねらい

地域の思い出がたくさんつまった「ふるため」の雰囲気子どもたちが体感し、大人も一緒になって一心に遊ぶことで、子どもたちの「センスオブワンダー」を刺激することをねらいとしています。また、この活動をきっかけとして、地域における継続的な交流の場づくりに繋がっていきたいと考えています。



活動の成果

子どもたちに、たくさんの体験機会を提供できました。また、あそびの屋台は、遊びを通して出展者と子どもたちとの交流の機会ともなりました。個人・団体出展者が、それぞれ全体目的と合うようにしながら、工夫を凝らした企画を持ち寄って、子どもたちと積極的に関わってくださったことが、大きな成果につながりました。出展者が昼食をとることも忘れ、熱心に子どもたちと遊んでいる様子が印象的でした。



この活動を実施したことによる団体の成長

イベントに出展していただいた方やその紹介などにより、地域内外で活動される個人・団体の方々とのネットワークが広がっています。本活動に限らずお互いに協力し合うことで、子どもたちを取り巻く環境の更なる充実や、ひいてはまちづくりに関することまで取り組みの幅が広がりつつあります。



太鼓を叩いた瞬間にこの笑顔！

活動の課題

本活動は、地域の個人・団体の主体的な参画によって成り立っています。今後も、これら団体等の参画の継続とより主体的な参画の度合いを高めていくことが課題です。本活動の継続に限らず、地域として子どもたちの成長を応援するしくみをどう作っていただけるのか、老若男女がいきいき暮らせるまちづくりとは、という大きな課題にも繋がっていきたいと考えています。



老人クラブのみなさん

団体の概要

当会は、地域資源を活用したまちづくりに取り組むために結成した団体です。地域に出て地域の方と一緒に汗をかきながらまちづくりに取り組むことを目的とし、地域の方々の多大なるご協力のもと「ふるため」を地域の人々の交流拠点として活用していくための様々な試行的取り組みを実施しています。メンバーは、主に地方公務員で構成されています。



たんぼにGO！ 第8回泥んこ綱引きと宝さがし

募集対象／未就学児～高校生、一般成人、保護者

活動日／平成24年6月17日（日）～7月1日（日）（1回）

実施団体名／キラリ岩井っこ教室実行委員会

構成員数／11名 子どもゆめ基金助成回数／6回

連絡先／鳥取県岩美郡岩美町岩井614

TEL：0857-72-2090 FAX：0857-72-2090 E-mail：pc7@iwami.gr.jp

活動の概要

- ・最近の子どもは、学校での田植え学習などで自然との触れ合いを行っているものの、テレビゲームやパソコンなど部屋で遊ぶことが多く、その分自然のなかで遊ぶ機会が少ないといわれています。そこで、休耕田を活用し、泥んこになりながら綱引き対抗戦や宝探しゲームを行うことで、この自然豊かな岩井の地を知ってもらい、また、地域の大人も参加することで、大人と子どもとの世代間交流を図ります。
- ・山陰海岸周辺が世界ジオパークに認定されたことを機に、この地域の自然環境と歴史を世代間交流しながら学びます。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
6月17日（日）	9：00	実行委員会役員やボランティア高校生らと、参加者全員でたんぼの草刈り・草取り、危険物の除去、土起し、水張りの準備を行う
7月1日（日）	9：00	畦の草刈り、たんぼの代掻き、温泉の湯の準備、会場準備
	13：00	開会式、活動ペア組み合わせ抽選
	13：15	綱引き
	15：00	探索タイム（川・用水路の生き物観察など）
	15：15	宝探し（ペアでそり引きゲーム、宝は地元の製品・特産品）
	15：30	温泉タイム（温泉の湯を参加者全員で掛け合う） （温泉のいろんな話を聞こう）
	15：40	閉会式
	16：00	解散

活動のポイント

- ・世代間交流：綱引きでのチーム編成（親子チーム、中学生チーム、部活チーム、大人団体チーム等）を工夫します。また、宝さがしでは、参加者全員がペアを組んでそりを引きゴールを目指します。
- ・協調性会得：綱引きにおいて、チーム内で立ち位置を決めるなど、それぞれで役割分担できるよう促します。宝さがしでは、どのコース取りをするか作戦を出し合い、お互いを理解し合います。



宝さがし（番号をゲット。よいコースを選んで1番になろう）

活動のねらい

- ・ 小学校廃校から11年。地域の幅広い異年齢間の交流を通して絆を確認するとともに、集団で活動することで子どもたちが我慢することや協調することの大切さを体験して、成長する力を育みます。
- ・ “岩井温泉”の成り立ちや歴史を子どもたちが地域の大人との交流から学ぶとともに、自然環境への興味や関心を引き出して自然豊かな自分の故郷を愛する心を育みます。



活動の成果

- ・ 未就学児から大人までの幅広い世代間交流を通して、異年齢間の絆が生まれました。また、チームで活動することで、子どもたちが我慢することや協調することの大切さも体験することができ、人間としての成長に繋がった。
- ・ ジオパーク浦富海岸エリアに属する故郷“岩井温泉”の成り立ちなどを、この活動を通して学習することにより、ふるさとの自然環境への興味や関心を身近に感じることができました。あわせて、他にはない温泉・自然豊かな郷土への感謝の気持ちを参加者同士で共有できました。



この活動を実施したことによる団体の成長

- ・ 当初は参加チームを何度も募集しながら運営してきましたが、近年はこの活動も地域に定着し、前年参加チームから開催の問い合わせがくるまでになりました。
- ・ これまで団体内で企画立案から指導までを行ってききましたが、今回初めて外部講師に協力していただくことができました。このことから、今後さらなる活動の質的向上を図るべく外部講師の活用が可能となりました。



綱引き決勝：子どもチーム
(私たちの力を結集すれば無限大の力だ?)

活動の課題

- ・ 参加チームは当該地区が中心ですが、今後は当該地区外の自治体、教育関係機関のチームも取り込んで、町全体の活性化に繋げていきたいです。
- ・ 今にも雨が降りそうな中での開催となりましたが、途中で荒天となった場合の対応プログラムを事前準備しておくよう万全を期したいです。



探検タイム (何がいの、魚? 虫?)

団体の概要

- ・ 学校週5日制、少子化、小学校統合に地域崩壊の危機感を抱いた有志が設立しました。最近では地区内の子どもたちのみに留まらず、広く町内を対象とし子どもたちを主として、世代間交流活動を企画実施しています。
- ・ 今年は、世界ジオパーク認定を意識し、この活動が子どもたちの郷土を愛する心を育むとともに、健全な育成に寄与することを目的としています。なお、現在のメンバーは、地域の生涯学習推進員経験者や青少年育成協議会・公民館関係の地域住民で構成しています。



ウォット 子供学芸員 教室

募集対象／小学生、保護者 活動日／平成24年4月14日（土）～平成25年3月23日（土）（19回）

実施団体名／日本海洋調査株式会社

構成員数／9名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／静岡県静岡市清水区三保1871番地の17
TEL：050-3732-7293 FAX：054-337-0655

活動の概要

子どもたちに、豊かな浜名湖の自然を肌で感じる体験をしてほしい。また、施設外に飛び出し、おいしくて安全な浜名湖の水産物が、どこでどのように生息し、漁獲されて食卓にならぶのかを知ってもらいたい。このことから、学芸員の仕事の一部である飼育・解説・研究の3部門の体験教室に参加し、子どもたちに生物や自然への興味をふくらませ、浜名湖についての理解と関心を深めてもらう体験学習の機会を企画しました。

活動の日程・内容

このプログラムは、体験内容別に飼育・解説・研究の3部門があり、すべての部門に参加修了すると、『ウォット子供学芸員』として認定証と認定バッジが授与される。

月／日	時間	内容
4月14日 (土)		飼育部門【お魚さんが待っている！エサやり体験】
	10：00	ウォット受付に集合
	10：10	調餌室でエサ作り、エサの種類と切り方を学ぶ
	11：00	予備槽でエサやり
	11：20	展示棟の水槽でエサやり、生き物たちの食べ方の観察
	12：00	レポート作成、修了式
5月12日 (土)		指導：体験学習施設（学芸員）
		解説部門【ドッキドキ！うらがわ探検ツアー】
	10：00	ウォット受付に集合
	10：10	取水棟・排水処理施設の見学
	10：20	予備槽の見学と生き物タッチング、水槽に魚を移す作業体験
	10：40	調餌室の見学、冷凍標本やエサの種類を学ぶ
	10：50	展示棟裏側の水の循環ポンプの見学
	11：10	大水槽の裏側を見学、海水温の測定、レポートの作成
	11：30	感想発表、修了式
7月21日 (土)		研究部門【浜名湖の生き物観察会】
	10：00	ウォット受付で、安全対策・参加者の体調・活動注意事項を説明し確認
	10：10	浜名湖でネットを使用して生き物採集、採れた生き物の説明と観察
	11：00	参加者全員が網で生き物採集と観察
	12：00	レポート作成、修了式
		講師：体験学習施設（元館長） 指導：同施設（学芸員）



「これは…？」採取した生き物の説明と観察

活動のポイント

①エサやり体験

包丁を使ったエサ作りの体験では、エサの種類に応じて、上手に切るコツを覚えます。

エサを食べる様子を観察することにより、生き物に対する興味を持ち育て方を学びます。

②うらがわ探検ツアー

普段は見られない施設の裏側を探検して、生き物の飼育施設がどのようなになっているかを理解します。

③生き物観察会

網を使って生き物を採集・観察し、その生態や体の仕組みを研究します。

生き物の安全な採集方法や、毒のある生き物の見分け方を学びます。

活動のねらい

ウオットの施設内外で、生物の生息環境や種類・育て方や特徴を学ぶとともに、周辺湖岸で生物の観察や採集を行い、浜名湖の自然に理解と関心をもたせます。

- ①飼育部門：生き物が何を食べ、どのような環境に生息しているかを知り、育て方などを学びます。
- ②解説部門：生き物の種類や特徴を知り、展示の方法を施設の表裏から解説します。
- ③研究部門：生き物の観察や採集などから、浜名湖の生物の不思議について学びます。



お魚たちのエサ作り！ 上手に切れるかな？

活動の成果

活動後のレポートから、浜名湖には生き物が少ないと思っていた参加者が、浜名湖の自然の豊かさに驚き、思いもよらない生き物との出会いに感動と興味を示していました。また、生き物の採集や飼育方法を学び、命を育てることの重要さと大切さを学ぶことができました。自由研究などで、浜名湖について調べる子どもたちが増えてきました。

活動の課題

安全管理や施設の面積などから、活動時間や募集人数を制限せざるを得ないため、当日の活動回数を増やせるように指導者の確保することが課題です。

しかし、募集定員に満たない活動もあり、より魅力ある体験プログラムの開発も必要です。

この活動を実施したことによる団体の成長

活動内容をポスターにまとめ、各小学校に配布し掲示されたことにより、「ウオット子供学芸員教室」を児童や保護者に広く周知することができました。

また、外部講師による体験教室は、構成員とは違った観点からの指導と新たな企画立案の可能性につながりました。



大水槽の大型魚の食欲にビックリ！

団体の概要

港・海岸・漁場等の測量・建設コンサルタントを業務とし、体験学習施設の管理運営を行っています。また、子どもを対象とした体験教室やイベントを実施し、浜名湖の漁業資源や生物などの豊かさ、そこに営まれる人々の暮らし、それらを支える自然環境の大切さを理解してもらうことを目的とした活動をしています。



子どもと本をつなぐ“絵本の読み聞かせボランティア スキルアップ講座”

募集対象／一般成人 活動日／平成24年9月3日（月）～12月3日（月）（4回）

実施団体名／おはなし瀬戸V.

構成員数／9名 子どもゆめ基金助成回数／3回

連絡先／愛知県瀬戸市東松山町155-35

活動の概要

読み聞かせボランティア活動を実施されている方を対象として、多くの子どもたちが本に親しみ、読書することの楽しさや素晴らしさを伝え続けるため、さらなる読み聞かせのスキルアップを期待して4回連続講座としてこの活動を計画しました。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
9月 3日 (月)	9:30～ 12:00	第1回 読み聞かせについて学ぶ。 ・読み聞かせの役割 ・子どもの心に届く読み聞かせ（発声・発音・表現） ・読み聞かせ実習
10月 1日 (月)	9:30～ 12:00	第2回 読み聞かせ「おはなし会」の構成と進め方を学ぶ。 ・「おはなし会」の構成 ・読み聞かせ実習
11月19日 (月)	9:30～ 12:00	第3回 読み聞かせ「おはなし会」の進め方を学ぶ② ・「おはなし会」の構成と進め方 ・読み聞かせ実習
12月 3日 (月)	9:30～ 12:00	第4回 「おはなし会」の開催方法を学ぶ。 ・実際に「おはなし会」を開き、読み聞かせの実習 ・「おはなし会」の終了後、講師および意見交換をする。

【講師 新居田美紀（元東海ラジオアナウンサー）】

活動のポイント

- ・子どもと本をつなぐ役割と子どもの心に届く読み聞かせ方を学びます。
- ・読み聞かせの基本（発声・呼吸法・発音・表現）の大切さを再認識します。
- ・読み聞かせ「おはなし会」の構成と進め方について学びます。
- ・子どもたちに本の楽しさを届けるための読み聞かせ活動を体験します。
- ・毎回、参加者による読み聞かせを行い、講師のアドバイスを得ます。

＜カリキュラム表＞

所要時間	項目	指導者	ねらい	内容
講義 30分	子どもと本をつなぐ読み聞かせの意義と役割	講師	子どもと本をつなぐ読み聞かせの意義と役割を理解する。	・子どもと本をつなぐとは？ ・読み聞かせの意義と役割
講義・実習 40分	子どもの心に届く読み聞かせ①	講師	子どもの心に届く読み聞かせの技法を学ぶ。	本の読み方 ・発声法、呼吸法、発音 ・表現力の磨き方
実習 60分	本選びと読み聞かせ	講師	本の選び方と読み聞かせの実践から学び、習得する。	・本を選ぶ ・読み聞かせの実践 ・指導助言
講義 30分	おはなし会のプログラムの構成の仕方①	講師	おはなし会のプログラムの構成進行、設営について学ぶ。	・おはなし会のプログラムの構成 ・年齢や場面に応じた方法 ・会場の設営準備の仕方
実習 30分	おはなし会のプログラムの構成①	講師	おはなし会のプログラムを構成する力を習得する。	・おはなし会のプログラム作成
実習 80分	子どもの心に届く読み聞かせ②	講師	学んだことを生かし読み聞かせを実践する。	・おはなし会の対象児の年齢に合わせて選んだ本を読む。 ・指導助言
講義・実習 60分	おはなし会のプログラム★構成②	講師	おはなし会のプログラムをグループで構成しまとめる力を習得する。	・おはなし会プログラムをグループで作成する。 ・役割分担及び各自読む本を決める。
実習 80分	子どもと本をつなぐ読み聞かせ	講師	グループでのおはなし会を実践し、子どもと本をつなぐ読み聞かせをめざす。	・プログラムに従いグループで読み聞かせ体験 ・指導助言
実習 100分	発表「おはなし会」	講師	おはなし会を実際に行い、子どもと本をつなぐ読み聞かせのスキルを高める。	発表 ・会場設営、準備 ・おはなし会実施 ・片づけ
講義 40分	意見交換及び講評	講師	意見交換及び講評を行い、今後の読み聞かせの努力目標を持つ。	・意見交換 ・講評

講座総時間 550分



一人ひとりの良い面を引き出してくださる講師のアドバイス

活動のねらい

- ・読み聞かせのスキルアップの方法（発声・発音・音量・抑揚・間の取り方・文脈や文章の流れによる速度変化等）を学び、読み聞かせのスキルを高め、より子どもたちに本の楽しさを届けられるようにします。
- ・今までの自身の読み聞かせを振り返りながら、更に読み聞かせの楽しさを感じ、意欲を持ってもらいます。
- ・今後の子どもと本をつなぐ読み聞かせボランティア活動に活かせるようなスキルアップを図ります。



大好きな本を参加者に届ける「おはなし会」で発表

活動の成果

日頃から読み聞かせを行っているボランティアの方々が、読み聞かせの実習をじっくりと聞きあうことで互いに刺激され、学び合うことができました。また、講師の先生は一人一人の良い面を引き出されるとともに、日々の努力の積み重ね、そして生き方が大切なことを伝えながら、熱心に指導してくださいました。このため参加者の方々に、今後の読み聞かせのスキルアップにつながる手立てをも学んでもらうことができました。

活動の課題

身近で多くの方たちが読み聞かせのボランティアをされています。スキルアップを目指す方も多いと思うので、学ぶ機会を引き続き提供していくようにすることが今後の課題です。また、情報交換や交流の機会を持つことが技術の向上につながると考えているので、読み聞かせの仲間が集まる機会を設けていくことも課題です。

この活動を実施したことによる団体の成長

この活動の計画を立てる時は、手探り状態でみんなで悩んだりしましたが、活動を実施することができ、参加者の方々に喜んでいただけたので、企画した甲斐があったことを実感しました。



話の内容を言葉にして伝える読み聞かせ実習

団体の概要

本好きで読み聞かせや朗読の好きな仲間が集まり、「おはなし瀬戸V.」を作りました。“子どもたちに本や読書の楽しさを伝えたい”そして、“子どもたちの豊かな心の成長”を願いながら、図書館や学校などでおはなし会や読み聞かせを行っているボランティアグループです。



子どもの本の力を考えるフォーラム

募集対象／未就学児～小学生、保護者

活動日／平成25年2月11日（月）（1回）

実施団体名／ルピナスさんの会

構成員数／34名

子どもゆめ基金助成回数／6回

連絡先／滋賀県東近江市

活動の概要

第一部では、子どもたちが身近に接する動植物や自然の世界などを含め、本やおはなしの世界を身近に感じ、興味・関心を深めるお話を講師にいただきました。また、日常の中にある驚きや発見をふくらませることができる作家を選定することで、一人ひとりの感性を豊かにする機会をつくりました。

第二部では、おはなしや本の世界を届けるとともに絵本と一緒に読みあうことで、来場者一人ひとりと本の世界を結ぶ機会を設けました。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
2月11日 （月）	13：00～ 14：15	●布施知子さん講演会 著書『あったよ！ 野山のごちそう』を中心に里山の暮らしから見える自然の豊かさ、厳しさそして創作への思いを含め語っていただいた。
	14：45～ 16：00	●おはなしフェスティバル
		・おはなし会の部屋 大型絵本の読み聞かせやパネルシアターなど様々な形式のおはなしを通して楽しんでもらうおはなし会を開催。
		・布施知子の部屋 絵本や物語のおはなしの中に出てくる動物や小道具など本を紹介しながらおりがみなどで作成した。
		・学校図書館の部屋 小学校の子どもたちの読書環境を支える学校図書館の紹介と絵本の読み聞かせやブックトーク、科学遊びなどを行なった。
		・えほんのひろば 厳選した500冊ほどの絵本を手づくり書架に並べ、子どもたちが好きな絵本を自由に手に取りながら周囲の人と読み合った。



学校図書館の部屋

活動のポイント

- ・「布施知子講演会」 日ごろ子どもたちが本を読んで親しんでいる作家と出会い、お話を聞くことで、本やおはなしの世界をより身近に感じ、興味や関心を深める機会とします。また、子どもの気持ちや立場になって感じることで作家を選定することで、おはなしを通して子どもたちに自分独自の感性を発見してもらいます。
- ・「おはなし会の部屋」 大勢の子どもたちへ向けてのおはなし会。大型絵本の読みかたりや巻絵、エプロンシアターなど、普段のおはなし会にはない手法でおはなしを届けます。
- ・「えほんのひろば」 会で厳選した絵本約500冊を手づくり書架に並べ、会メンバーが来場者に合った絵本を読み合うことで、本との出会いの場を作った。

活動のねらい

今を生きる子どもたちが、絵本やおはなしの世界を体感し、本の持つ力によって広い視野と生きる力を持ち、心豊かに育つようにするには、どのように本を手渡していけばよいかを考えるフォーラムとします。そして、地域の住民や子どもたちに「ルピナスさんの会」の活動を広く知ってもらい、絵本やお話の世界にふれる楽しさを体験してもらいます。また、子どもたちへおはなしの世界を届ける支援者や活動参加者を増やすプログラムを開催します。



えほんのひろば

活動の成果

前半の講演会では、身近にあるものから新しいことを発見する喜びをユニークな視点を交えて話していただきました。また、本を楽しむ時に重要な想像を膨らませていく楽しさについても触れていただいたことで、私たち大人がモノの見方や考え方を新たにしながら、子どもに寄り添っていくことの大切さを感じました。後半のおはなしフェスティバルは、幅広い内容で開催することができ、多くの子ども達と子どもに関わる大人とが本の世界の面白さや想像する楽しさを分かち合うことができました。

活動の課題

- ・活動当日、途中から雪が降ったため、会場へのアクセスや駐車場の確保と会場への移動がスムーズに行えませんでした。開催場所や開催時期が、今後の検討課題です。
- ・活動を重ねていくの中で感じたことを共有し、運営手法やプログラムを見直す時期になっています。
- ・地域でよりよい読書環境整備が進むよう、子どもの周囲にいる大人への働きかけの方法なども検討していきたいです。

この活動を実施したことによる団体の成長

活動を継続して行っていることにより、他機関とのつながりが深まり、協力を得やすくなりました。また、多くの人に関わって活動をする中で、回を重ねるごとに意見の交換が活発に行われるようになってきています。

そのため、今後も子どもと子どもをとりまく大人たちにとって、より魅力のある活動になる可能性が期待できます。



布施知子講演会

団体の概要

2000年の「子ども読書年」を機に、東近江地域内で読書活動が推進され、地域に根ざした読み聞かせ活動が始まりました。その後、東近江市が新市として合併誕生し、市内の各地域で活動していた読み聞かせボランティアのグループが中心となってネットワーク構築を図り、連合組織として市内における読書活動のさらなる推進をはかるため、2005年2月、子どもたちに楽しい本の世界を届ける実行委員会「ルピナスさんの会」として発足し、活動を開始しました。現在、東近江市内を活動場所の中心として、一人ひとりの子どもたちに楽しい本の世界を届け、県内にも読書活動の推進を広く呼びかける活動を継続しています。

ホッとアートプレゼント「絵本はともだち」

募集対象／未就学児～中学生、保護者 活動日／平成24年10月29日（月）～平成25年1月21日（月）（5回）

実施団体名／NPO法人兵庫県子ども文化振興協会

構成員数／24名 子どもゆめ基金助成回数／1回

連絡先／兵庫県神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸情報文化ビル3F ハーバーランド文化村

TEL／FAX：078-361-1152 E-mail：kodomo-bunka@peace.ocn.ne.jp

活動の概要

長期入院を余儀なくされている子どもたちのもとへ、プロによる絵本の読み聞かせパフォーマンスや、紙芝居、手遊びなどを届けます。子どもたちだけではなく付き添いの保護者、医療関係者にも一緒に参加してもらい、ホッとするひと時を過ごしてもらうことを目的としています。また、病院内の絵本以外の本も読めるように「おすすめ絵本箱」を設置しました。

活動の日程・内容

月／日	時間	内容
10月29日 （月）	14：00～ 15：00	兵庫医科大学病院プレイルーム 「絵本パフォーマンスショー」 岸田典大
10月30日 （火）	14：00～ 15：00	神戸市立医療センター中央市民 病院 「絵本パフォーマンスショー」 岸田典大
10月31日 （水）	14：30～ 15：30	市立伊丹病院 「絵本パフォーマンスショー」 岸田典大
11月20日 （火）	15：30～ 16：30	神戸大学医学部附属病院 「千代野おばさんのおはなし会」 田中千代野
1月21日 （月）	15：30～ 16：30	兵庫県立こども病院 「千代野おばさんのおはなし会」 田中千代野

〈公演までの流れ〉

・実施病院への打診

◆実施病院との打ち合わせ

- ・事業内容の確認
- ・入院患者の状況把握（年齢、人数、会場）
- ・日時の決定
- ・ポスター、招待状の作成

◆出演者との日程調整

◆1週間前に健康チェック表の記入（出演者、スタッフ）
（検温、発熱、倦怠感、頭痛、せき、のどの痛み、鼻水・鼻づまり、腹痛、下痢、嘔吐）

◆病院での実施

（仕込み1時間、公演時間30分、撤収時間30分）
・絵本に読み聞かせ
・わらべうた、手遊び
・病室回り（希望病院のみに個別に読み聞かせ）
・絵本の貸出

・参加者へのアンケートの実施

◆病院への事後アンケートの実施

◆報告書の作成



絵本パフォーマンスショー

活動のポイント

- ・参加した子どもたちの年齢に合った内容の絵本、紙芝居などの読み聞かせを行う。
- ・「手遊び」「わらべうた」など、後からも親子や友だちとふれあうことのできる遊びを体験する。
- ・本屋さんや児童文庫主宰者から「おすすめ絵本」を提案してもらい、プレイルームに置き、貸し出しをする。

活動のねらい

毎日辛い検査や治療に耐えている子どもたちに笑顔になれる時間を届け、少しでもQOL（生活の質）の向上を図れたらと思います。付き添っている保護者にとっても、わが子の笑顔を見られることは一番の幸せです。公演を保育士さん、看護師さん、お医者さんなど医療関係者にも一緒に見てもらうことで、共通の体験を通して子どもたちとのコミュニケーション作りに役立つと考えています。また、「おすすめ絵本箱」を設置して病院以外の様々な絵本に出会う機会を提供します。



活動の成果

岸田典大さんは、自身で作曲されたBGMをバックに、テンポ良く読み聞かせをされました。今まで見たことのないパフォーマンスに、始めは少し驚いていた子どもたちもだんだんと身を乗り出して、絵本と音楽のコラボレーションに引き込まれていました。田中千代野さんは、絵本の読み聞かせのほかに、手遊び、わらべ歌、人形劇とさまざまな出し物で楽しませてくださり、子どもたちと問いかけをしながら楽しい時間が過ごせました。どちらも、子どもの年齢に合わせた絵本を、その場で選びながら進める事が出来てよかったと思います。「おすすめ絵本箱」は出演者の読んだ絵本が好評でした。



この活動を実施したことによる団体の成長

この活動を通して、改めて文化芸術の持つ力を実感しました。観る人の心を解きほぐし、癒しを与え、元気づけてくれます。大きな手術を前に沈みがちだった子どもが笑顔を見せてくれました。

また、「子どもたちのQOL（生活の質）」の大切さを考えさせられました。学校にも行けない、兄弟や友達とも自由に遊べない、ましてはどこかへ出かけて楽しい体験をすることも出来ない。そんな環境にいる子どもたちに少しでも『子どもらしい生活』を送ってもらえる手助けをできる事業に出会えたことを大切にしていきたいと思います。



千代野おばさんのおはなし会1

活動の課題

病院を活動場所にしているため、参加する子どもたちはもちろんですが、講師やスタッフの大人が病気を持ち込まないようにすることが活動の課題であり、最も注意しなければならないことです。この活動を実施するにあたっては、1週間前から構成員が健康チェック表を作成し、健康管理に気を付けています。参加者のアンケートから毎月でも開催してほしいという意見をたくさん頂きます。それに応えるためにも、継続して健康管理を行うことが重要です。



千代野おばさんのおはなし会2

団体の概要

兵庫県子ども文化振興協会は地域における芸術体験や野外での自然体験を通じて、子どもと大人が育ち合う会です。ワクワク・ドキドキする感動や、様々な人々との出会いから、子どもも大人も豊かに育ち、「安心して自分を出せる居場所」を地域に広めていきます。私たちは子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすことができる環境づくりを進めます。

葉っぱと7つのミステリー ～ふしぎを見つけて、植物と友だちになろう！～

教材名／葉っぱと7つのミステリー ～ふしぎを見つけて、植物と友だちになろう！～

実施団体名／特定非営利活動法人 蓼科・八ヶ岳国際自然学校

連絡先／〒391-0301 長野県茅野市北山5513番地341

TEL：0266-67-1115 FAX：0266-67-1116 E-MAIL：office@tyins.or.jp

ホームページURL http://www.tyins.or.jp/

教材URL／http://happa-power.info/

教材利用のポイント

身近に存在している「植物の葉」をテーマに植物の科学を探索させ、科学の基本となる野外活動へ誘導します。

- (1) 観察や実験を組み合わせることによって、「気づき」の機会を多く与え、正しく科学へ向き合う姿勢を育てます。
- (2) 自然の中で、五感という素晴らしい人間の能力を楽しみ、同時に自然を大切に思う子どもたちを育てます。



トップページでは葉っぱキャラクターが登場して、楽しく誘導。



解説ページに「もっと調べてみよう」ページ、クイズ、「観察」「実験」、さらに工作（一部コーナー）も収録。

教材の活用事例及び普及状況

- 地域の児童館、公民館、地域の文化施設の野外体験教室・自然体験活動で利用できます。また、そのテーマの事前・事後学習教材として活用ができます。
- 家庭や地域の子どもの会の体験教材として、家族キャンプや近くの公園等での四季を通じて安全で身近な自然体験ができる教材として利用できます。
- 悪天候や野外活動が制限される冬の時期でも（冬の積雪期にはアニマルトラッキングに出発する前の事前学習として、また、アニマルトラッキングから戻ってきからの教室内での事後学習等）屋内でこの教材を活用することにより、植物や環境についての学習を提供できます。

教材の概要

Ⅰ. 教材開発の背景とねらい

自然体験活動で子どもたちと接していると、彼らがけっして理科がきらいでないことがわかります。むしろ、自然とうまく向き合っているようにも感じます。私たち大人が幼少の頃に想像した未来都市が今や現実になんて近くなっていますが、決して住みやすい環境でないことを子どもたちは素直に感じているようで、ほっとする反面、自然環境を守る工夫がさらに必要であるということを強く感じます。

その自然を象徴する緑色は樹木や草の葉です。植物の葉は主役になることはあまりありませんが、この身近な小さな植物の科学は私たちに様々なことを教えてくれます。

この教材は、身近に存在する「植物の葉」をテーマに、植物の科学を探索させ、科学の目を養う野外活動へ誘導することを目的としています。

Ⅱ. 利用対象

小学校高学年（4年～6年生）の子どもたち、その保護者および指導者です。

Ⅲ. 内容

●ミステリー1 葉っぱって、植物のどこの部分？

導入パートとして、身近な植物である野菜から植物の基本構造を理解し、葉の形にいろいろがあることを理解させます。展開として葉で植物の見分け方を教えます。

●ミステリー2 葉っぱは、季節がわかるの？

なぜ、春に花が咲く植物が多いのか？という素朴な疑問から展開し、夜の時間の長さとの関係に注目させ、冬越しの方法などを学びます。

●ミステリー3 葉っぱは、なぜ緑色なの？

緑色にこだわることによって、葉緑体の存在や葉の細胞について学習します。

●ミステリー4 葉っぱは、呼吸している？

葉が呼吸をしたり、水分を吸い上げる働きをすること、根、茎の働きを学び、植物の基本構造を学習します。

●ミステリー5 葉っぱは、刺激を感じるの？

刺激を与えると閉じるオジギソウを題材に葉っぱの不思議な運動を知ります。また、植物の夜の生態を知り、花とは違った葉の世界を学びます。

●ミステリー6 葉っぱは、生き返るの？

葉っぱの不思議な生命力を観察したり、実験をしたりして、植物の成長について学びます。さらに展開として、トウモロコシが燃料として使われることによる生物環境の影響までを学習します。

●ミステリー7 葉っぱのマジックパワー！

葉っぱから生まれた葉など、人間の生活に必要なものを生み出している植物の恩恵についてまとめていきます。

団体の概要

通年プログラム、季節プログラム、雪国体験等からなる「蓼科・ハケ岳自然体験プログラム」「ハケ岳自然と森の学校」を開催。全国各地から多くの参加者を迎えて実施しています。

その他、月例ウォーキング、指導者養成講座、初心者向けの山登り、トレッキング・自然観察ガイド派遣等を実施。今後もなお一層、自然体験活動の普及に努めたいと考えています。

平成24年度助成活動で開発された教材一覧

活動名	教材 URL	団体名
こどもの日本語 1. 2. 3.	http://mie-jissen.cie.mie-u.ac.jp/	三重実践日本語教育の会
親子で作る伝承手づくりおもちゃ	http://npokaizokusen.jp/h24_yumekikin/index.html	特定非営利活動法人 海賊船
発達障害児・者のためのオンライン eラーニング・ワークショップシステム	http://www.developmental-diversity.com/workshop/	東京都成人発達障害当事者会 「Communication Community・ イトコサガシ」
みんなで遊ぼう、自然遊びとわらべうた —光や風と遊び、土や水と遊ぶ—	http://www.nihonwarabeuta.jp/dvd2/	特定非営利活動法人 日本わらべ うた協会
親子でつくろう！ 季節の味 in 家庭のキッチン —行事食編—	http://tokyo-chifuren.jp/web2/index.html	特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟
雑木林コミュニティサイト「e-forest3.0」 とスマートフォンアプリ「Tap Map」	http://e-kids.jimdo.com/ スマートフォンア プリ開発／	特定非営利活動法人 e-kids
太陽が地球を救う！？ 太陽のソーラーエネルギー	http://solar-kids.info/	国際 NGO ソーラーネット
都会にすむ鳥たちの物語 —君たちと出会えた理由—（「物語」を通し た子どもたちと野鳥との「つながり」を構築 する学習ウェブサイト）	http://www.tori-monogatari.com/	株式会社 生態計画研究所
子ども・親のための障害理解啓発絵本 「本当にあった話だよー小さなピカソたちの 夢」デジタル絵本	http://www.panda-j.com/artbook/ index.html	特定非営利活動法人 PandA-J
チリメンモンスターWEB インタラクティブ図鑑	http://chirimon.jp/	公益社団法人 大阪自然環境保全協会
天文宇宙を楽しもうー1分アニメ 「あすとろかるた」	http://www.tenpla.net/karuta/	天プラネット
葉っぱと7つのミステリー —ふしぎを 見つけて、植物と友だちになろう！—	http://www.happa-power.info	特定非営利活動法人 蓼科・ハケ岳国際自然学校
地域に伝わる自然にやさしい生活 —先人に学ぶエコライフ—	http://www.nature-ecolife.com/	自然を活用するエコライフ研究会
種の旅のひみつを探ろう	http://www.karooyaji.org/seed/	特定非営利活動法人 賀露おやじの会
動物園の動物に関するWEB図鑑 （デジタルZOO CAN）の作成	http://www.zoocan.jp/zukan/	NPO ZOO CAN DREAM PROJECT
体験してみよう！ 世界遺産「小笠原諸島」の不思議	http://kenkyu.sakura.ne.jp/ogasawara/	日本ICT研究会
つたえていこう！ 美しい日本の心 —金子みすゞの詩の朗読—	http://k-misuzu.com/	劇団ティンカーベル
元気に行進！レッツ ゴー パレード	http://www.javea.or.jp/	財団法人 日本視聴覚教育協会
きみの夢ってなあに？ —匠（たくみ）からの未来メッセージ—	http://takumi-message.info/	財団法人 日本進路指導協会

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ ー申請までの流れー

子どもたちのために体験や読書の機会をつくりたい…と思ったら

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイド2013を読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL：<http://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>

実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に足を運んでみませんか？

◎毎年9～10月にかけて全国6会場で実施しています。申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。平成25年度は東京・福岡・仙台・金沢・神戸・広島で実施予定です。

会場の詳細はホームページの注目情報からご確認ください。

URL：<http://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや、相談したいことがあれば子どもゆめ基金までご連絡ください。
(メールお問い合わせ：yume@niye.go.jp)

募集期間と活動の実施日は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 平成25年10月1日(火)～12月5日(木) 締切
平成26年4月1日～平成27年3月31日までに開始される活動が対象です。

二次募集期間 平成26年5月1日(木)～6月23日(月) 締切
平成26年10月1日以降に開始される活動が対象です。

※二次募集は、市町村規模・申請額30万以下(様式B)のみとなります。

※郵送の場合、消印有効となります。

募集案内や申請書は子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能になります。



日中韓子ども童話交流事業

● 事業の概要 ●

日中韓子ども童話交流事業は、日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、相互理解と友情を深めることを目的として、2002年の「日中韓国民交流年」を機に日本で始めました。

第9回（2011年）からは、3ヶ国による巡回開催となり、2012年は韓国の慶州とソウルを会場に実施し、各国の小学校4年生から6年生の子どもたちが、日本と中国から33名、韓国から34名の計100名が参加しました。日程は8月17日から23日までの6泊7日間で、「光」をテーマに、友だちと協力して世界に一つの創作絵本づくりに挑戦しました。

● 事業の内容 ●

日本の子どもたちは、8月16日に東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに集まり、出発式では、河村建夫日中韓子ども童話交流事業実行委員会委員長から激励のこたばをいただき、日本代表団としての決意を高めました。

翌17日に羽田空港から韓国・釜山に入り、日中韓3ヶ国の子どもたちの最初の出会いの場である慶州教育文化会館に到着しました。オリエンテーションで3ヶ国の混成グループが発表され、いよいよ童話交流事業がスタートです。

世界に一つだけの創作絵本

3か国の子どもたちが、男女混成で各国3～4名の10班に分かれ、「光」をテーマにグループで分担・協力してオリジナルのキャラクターやストーリーを考え、物語に沿って絵を描きました。絵本は一人ひとりが一場面を担当し、グループ全員で世界に一つだけの、友情が一杯詰まった創作絵本を完成させました。



日本



中国



韓国



これから本格的な班活動です。チームワークを大事に、素敵な絵本を作ろうね！

まずは、班旗づくりに取り組みます。子どもたちが班名を決め、絵を描き、完成させた旗を発表することで班にまとまりが見え始めました。

2日目は、韓国の文化に触れながら交流する日です。特に一人ひとりが夢と願いを書き込んだ手作りちょうちんを携えて瞻星台（せんせいだい）などの歴史的文化財の見学に出かけた時は、暗闇に浮かぶちょうちんの列や、みんなのちょうちんを並べて作った「光」の文字がとても幻想的で、子どもたちにとって思い出深い時間となりました。

3日目にソウルに移動し、いよいよ絵本づくりがスタートしました。ストーリー作り会場のソウル・松坡（ソンパ）子ども図書館では、絵本作家による絵本の作り方の講義を聴いてイメージを膨らませてから、グループ毎に館内を自由に使って、絵本作家のアドバイスのもと、ストーリーを考えました。一つのストーリーにまとめるのは簡単ではありませんでしたが、この過程で子どもたちは様々な価値観やアイデアが仲間にあることを知り、大いに刺激を受けました。

次に、ストーリーに対応した絵を描きました。これ

までのプログラムで見聞したことなどをもとに、想像力と独創性を駆使して個性豊かに描きました。子どもたちは、毎日のプログラムを通して、たくさんのことを吸収していたことが分かります。

絵本づくりの最後の段階である製本作業では、絵本作家やリーダーの助言のもと、慎重にのりづけしていきましました。3日間にわたり取り組んだ絵本が完成した時は、各グループで拍手と歓声が上がりましました。

練習してから臨んだ絵本発表会では、自分たちの絵本を各自が1ページずつ読み上げました。発表中、仲間を助ける姿が度々見られるなど、絵本づくりを通して、日中韓の子どもたちの友情が深まったことが分かりました。



絵本発表会では、仲間と助け合いながら発表しました。

最終日の解散式では、各国の子ども代表3人が感想を発表した後、交流の旗が来年の開催地である日本の子ども代表に手渡されました。涙が止まらず空港行きのバスになかなか乗り込めない子どもたちの口からは、再会を約束する言葉が多く聞かれました。子どもたちは創作絵本のほかにも多くの宝物を得て、帰国の途に就きました。



それぞれが描いたページをかがけて、充実感いっぱいです。

申請・採択状況

(8月1日現在)

平成25年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	4,011	3,042	1,284,878
子どもの読書活動	571	463	165,799
教材開発・普及活動	64	12	88,443
合 計	4,646	3,517	1,539,120

平成24年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,988	2,963	1,214,789
子どもの読書活動	613	451	163,080
教材開発・普及活動	64	19	98,700
合 計	4,665	3,433	1,476,569

平成25年度 都道府県別申請・採択状況

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	244	175
	読書活動	22	20
青森県	体験活動	24	20
	読書活動	4	3
岩手県	体験活動	33	29
	読書活動	3	2
宮城県	体験活動	59	48
	読書活動	10	6
秋田県	体験活動	23	18
	読書活動	3	3
山形県	体験活動	24	23
	読書活動	3	3
福島県	体験活動	45	18
	読書活動	7	6
茨城県	体験活動	44	32
	読書活動	4	4
栃木県	体験活動	57	49
	読書活動	14	14
群馬県	体験活動	70	45
	読書活動	3	3
埼玉県	体験活動	122	96
	読書活動	11	9
千葉県	体験活動	137	111
	読書活動	10	9
東京都	体験活動	679	507
	読書活動	91	69
神奈川県	体験活動	130	94
	読書活動	16	16
新潟県	体験活動	88	65
	読書活動	8	7
富山県	体験活動	21	18
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	52	42
	読書活動	9	4
福井県	体験活動	68	42
	読書活動	3	2
山梨県	体験活動	37	30
	読書活動	9	9
長野県	体験活動	91	66
	読書活動	11	10
岐阜県	体験活動	78	61
	読書活動	7	3
静岡県	体験活動	81	63
	読書活動	7	5
愛知県	体験活動	118	95
	読書活動	9	9
三重県	体験活動	31	27
	読書活動	12	7
滋賀県	体験活動	66	57
	読書活動	18	16
京都府	体験活動	70	50
	読書活動	9	8
大阪府	体験活動	357	287
	読書活動	53	46
兵庫県	体験活動	193	152
	読書活動	16	12
奈良県	体験活動	60	42
	読書活動	13	10
和歌山県	体験活動	44	33
	読書活動	9	7
鳥取県	体験活動	6	3
	読書活動	5	4
島根県	体験活動	22	18
	読書活動	12	9

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	50	38
	読書活動	9	7
広島県	体験活動	31	21
	読書活動	2	0
山口県	体験活動	20	17
	読書活動	8	8
徳島県	体験活動	57	41
	読書活動	5	3
香川県	体験活動	35	20
	読書活動	8	8
愛媛県	体験活動	50	43
	読書活動	3	3
高知県	体験活動	29	23
	読書活動	4	2
福岡県	体験活動	162	118
	読書活動	41	35
佐賀県	体験活動	15	10
	読書活動	1	1
長崎県	体験活動	56	34
	読書活動	5	3
熊本県	体験活動	83	63
	読書活動	32	23
大分県	体験活動	32	28
	読書活動	8	5
宮崎県	体験活動	53	42
	読書活動	12	12
鹿児島県	体験活動	133	104
	読書活動	19	16
沖縄県	体験活動	31	24
	読書活動	3	2

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からのご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

振替口座

口座番号	00150-5-371382
口座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振替払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱東京UFJ銀行	渋谷支店
口座番号	普通預金 3025103	
口座名義	子どもゆめ基金	

子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」への寄附団体

平成24年度に「子どもゆめ基金」へご寄附をいただいた方々をご紹介します。

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

(あいうえお順・敬称略)

株式会社伊藤園	特定非営利活動法人 子ども文化ステーション	戸田 美登里
株式会社大林組	佐伯 喜美子	特定非営利活動法人 八王子レクリエーション協会
お香を楽しむ会 石川悦子	西洋フード・コンパスグループ株式会社	株式会社八洋
特定非営利活動法人 思いをつなぐ会	曾我部 國久	株式会社明和サービス
川端 優男	東京コカ・コーラボトリング株式会社	ライフカード株式会社

子どもゆめ基金ガイド2013

2013年9月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081

URL <http://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

教育施設一覧

当機構の全国28施設は、それぞれの地域の立地を活かした様々なプログラムを提供し、多くの青少年の体験活動を支援しています。

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢村)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
TEL 03-3467-7201 (代表)
URL <http://www.niye.go.jp>